学習アドバイス - 国語

■　公募推薦入試（11 月 19 日）

出題傾向

解答時間は 60 分。現代文からの出題で、基本的に五者択一式のマークシート形式であるが、大問一では四十字以内で指定語句を用いて書く記述問題が、大問二では一字の漢字を抜き出す問題が、大問三では文章を読んで考えたことを六十字程度で書く記述問題がそれぞれ出題されていた。なお、初見では評論と随筆・エッセイの区別はしづらいが、大問一、二は評論から、大問三は随筆・エッセイ・小説などから出題される傾向にある。そして、設問は年度によって多少変動するが、漢字問題、意味問題、指示語に関する問題、傍線部や本文の内容・理由説明などの読解問題、内容合致問題、空欄補充問題、文挿入問題、文整序問題、抜き出し問題、記述問題など、多彩な設問が並んでいることが多い。なお、空欄補充問題の内容も多彩で、語句や表現を入れる問題、接続語や副詞などを入れる問題など、こちらも幅広い問題が出題される傾向にある。こうした空欄補充問題で高得点を取るには語彙力が必要だが、漢字問題が大問一で 3 問、大問二で 2 問、大問三で 3 問の合計 8 問出題されていることを踏まえると、漢字も含めた語彙力全体のレベルアップが重要になってくると言える。

大問一は、加藤普・伊藤亜聖・石田賢示・飯田高『デジタル化時代の「人間の条件」』からの出題で、約 2600 字であった。上述したような問題に基づいて出題されているという点では大きく変わらないが、記述問題が指定語句を用いて書く問題であった点が新傾向であった。

大問二は、広瀬浩二郎『目に見えない世界を歩く』からの出題で、約 1800 字であった。上述したような問題に基づき、多彩な問題が出題されていた。

大問三は、村上春樹「品川猿」からの出題で、約 2700 字であった。上述したような問題に基づいて出題されているという点では大きく変わらないが、記述問題が自分の考えを書く問題であった点が主な変更点である。

※なお、2024 年度入試において、記述式の出題を廃止いたします。

学習アドバイス

漢字問題が合計 8 問出題されていることを踏まえると、まずは漢字対策が必要であると言える。たとえ 1 日 10 分でも毎日続ければ、多様な漢字を覚えることができるだろう。また、漢字を覚えることが読解問題の対策にもつながる。文章がなかなか頭に入らないという受験生がいるかもしれないが、それは言葉をイメージするための語彙力が不足しているのが一因になっている可能性がある。読解問題が苦手な人も、漢字や語句を覚えてイメージできる箇所を増やしていってもらいたい。なお、上記の「出題傾向」でも述べたように、多彩な問題が並んでいる。多様な読解問題や空欄補充問題に対応するためにも、語彙力は欠かせないと言える。

次に、読解問題の対策であるが、記述問題や本文・傍線部を問う問題では評論・随筆・エッセイ・小説に関係なく、設問や傍線部を正確に理解するという意識が必要である。もちろん文章を理解する力も必要だが、問題である以上、設問や傍線部を理解する力も必要である。よって片方に偏ることのないよう、文章を読む力と解く力の両方を鍛えておきたい。その際、設問や傍線部

の記述に近い箇所は本文のどの辺りだろうかと、探しながら解いてみるのも効果的である。

そして、記述問題の対策であるが、こちらも読解問題と同様、設問や傍線部の説明箇所を本文から探すようにしたい。時間制限があるので、該当箇所を素早く見つけることができるよう反復練習をしておきたい。なお、自分の意見を書く記述問題が引き続き出題されたとしても、制限時間内で書き上げるという点では変わらないため、普段から時間を意識して自分の意見を書く練習を重ねておきたい。

最後に、時間配分について述べたい。問題集を解くときも過去問を解くときも、制限時間を守るようにしたい。なぜなら、記述問題が各大問で出題されているにもかかわらず、制限時間は 60 分と短めだからである。よって、時間が足りない受験生も出てくるだろうから、普段から時間配分を意識しながら解くようにしておきたい。時間配分は慣れが解決してくれることが多いので、時間内に解けるように、何度も解いて反復練習をしておきたい。

■　全学統一入試（2 月 3 日）看護学部も同様

出題傾向

解答時間は 60 分。全て五者択一式のマークシート形式である。本日程は大問が 3 つあるが、全て現代文の読解問題である。基本的には大問一、二が評論から、大問三が随筆・エッセイ・小説から出題されることが多い。そして、設問は年度によって多少変動するが、漢字問題、意味問題、指示語に関する問題、傍線部や本文の内容・理由説明などの読解問題、内容合致問題、空欄補充問題、文挿入問題、文整序問題、抜き出し問題、記述問題など、多彩な設問が並んでいることが多い。また、空欄補充問題の内容も多彩で、語句や表現を入れる問題、接続語や副詞などを入れる問題など、こちらも幅広い問題が出題される傾向にある。なお、漢字問題が大問一で 3 問、大問二で 2 問、大問三で 3 問の合計 8 問出題されているので、漢字を覚えながら、読解に必要となる語彙力も強化しておきたい。

大問一は、荒谷大輔『使える哲学　私たちを駆り立てる五つの欲望はどこから来たのか』からの出題で、約 2900 字であった。上述したような問題に基づいて出題されていたという点で、例年通りの問題であった。

大問二は、犬飼裕一『世間体国家・日本　その構造と呪縛』からの出題で、約 2000 字であった。こちらも大問一と同様例年通りの傾向で、多様な問題が出題されていた。

大問三は、小川洋子『遠慮深いうたた寝』からの出題で、約 2000 字であった。大問三では評論以外の文章から出題されやすいが、評論と随筆・エッセイ・小説の解き方に大きな違いはないので、落ち着いて解きたい。問題構成も大問一・二と同様であるが、表題を問う問題も出題されていた。必ず出題される問題とまでは言えないので上記の出題傾向には載せていないが、それなりの頻度で出題される問題ではあるので、やはり幅広い学習が必要である。

学習アドバイス

漢字問題が計 8 問出題されていたので、まずは漢字対策をしておきたい。具体的には、1 日 10 分ほど漢字を覚える時間を作りたい。たとえ 10 分でも毎日続ければ、多様な漢字を覚えることができる。また、漢字を覚えることが読解問題の対策にもつながる。我々は普段話し言葉で話すが、入試に出てくる文章は書き言葉で書かれるため、受験生は同じ日本語でも読みづらさを感じやすい傾向にある。しかし、漢字を覚えながら意味を覚えていくと語彙力がつくので、なじみの少ない言葉で書かれた文章でも頭に入ってきやすくなる。加えて、語彙力がつくと空欄補充問題でも入れるべき選択肢の判断がしやすくなるという効果が期待できる。なぜなら、言葉の意味を知っていると、文章の流れの中でどの言葉が適切か判断しやすくなるからだ。よって、まずは漢字を覚えながら語彙力をつけていくことが効果的であると言える。

次に、読解問題の対策であるが、まずは設問や傍線部の内容を理解することを意識してほしい。たとえば、「心の窓が開く」という箇所に傍線が引かれたとする。「窓」とは、私たちにとっては家にあるものであるが、「窓」の前に「楽しいことや苦しいことが展開すること」という表現があれば、文章内における「窓」とは、「楽しいことや苦しいこと」といった「感情」を踏まえた表現であることがわかる。このように、私たちにとってなじみのある「窓」という表現が、本文では別の意味として用いられていることもある。したがって、設問や傍線部、選択肢で使われている

表現が、本文ではどのような意味で使われているか確認する必要がある。このように、文章を読み問題を解く際には、細心の注意を払う習慣をつけておきたい。それに加え、様々な問題が入っている問題集を解いておくとより効果的である。

■　一般入試（2 月 7 日）看護学部も同様

出題傾向

解答時間は 60 分。大問一・二・三ともに評論・随筆・エッセイ・小説から出題されることが多いが、評論と随筆・エッセイの区別を明確にしづらい文章もあるだろう。しかし解き方は変わらないため、大問一・二・三ともに正しい解き方で解くようにしたい。どんな文章から出題されても求められる学力は同じであるので、基本的な解き方をしっかりと身につけておきたい。なお、全て五者択一式のマークシート形式である。設問は年度によって多少変動するが、漢字問題、意味問題、指示語に関する問題、傍線部や本文の内容・理由説明などの読解問題、内容合致問題、空欄補充問題、文挿入問題、文整序問題、抜き出し問題、記述問題など、多彩な設問が並んでいることが多い。なお、空欄補充問題の内容も多彩で、語句や表現を入れる問題、接続語や副詞などを入れる問題など、こちらも幅広い問題が出題される傾向にある。

大問一は、景山洋平『「問い」から始まる哲学入門』からの出題で、約 2600 字であった。上述したような問題に基づいて出題されていたという点で、例年通りの傾向である。

大問二は、菊地暁『民俗学入門』からの出題で、約 2100 字であった。大問一と同様、例年通りの傾向で、幅広い問題が並んでいた。

大問三は、長谷川修「舞踏会の手帖」からの出題で、約 2000 字であった。大問一・二と同様、多彩な問題が並んでいるという点で例年通りの傾向であった。

学習アドバイス

大問一では漢字問題が 3 問出題されていた。大問二では漢字問題が 2 問、大問三では 2 問出題されていることを踏まえると、漢字は得点源にしておきたい。したがって、1 日 10 分で構わないので、継続的に漢字を覚える時間を作り、あわせて意味を調べておくようにしたい。そうすると、空欄補充や意味を問う問題でも得点できるようになるので、一石二鳥である。次に読解問題のアドバイスであるが、こちらは設問や傍線部が述べている箇所に着目するようにしたい。もちろん本文も重要だが、本文だけ読めても得点することはできない。設問や傍線部が本文全体のなかでどのようなことを述べているのか、という視点も不可欠である。問題集は標準レベルのもので構わないので、上記の視点で問題演習量を増やすことが合格への第一歩であると言えよう。

なお現代文の解き方は、評論と随筆・エッセイ・小説で変わることはない。ただ、随筆・エッセイ・小説は評論とは異なり、文章によっては本文の表現をそのまま使うことは難しいので、選択肢では本文の表現を少し変えて書かれることが多い。したがって、表現が変わっていても同じことを言っていると判断する力が必要である。そうした力をつけるには、やはり語彙力が必須である。普段から知らない言葉が出てきたら、調べて覚えるようにすることが重要だということだ。こうした語彙力が鍛えられてくると、普段考えないようなことがテーマになっていても、対応できる柔軟性が身についているはずだ。同時に、評論だけでなく随筆・エッセイ・小説も入っている問題集を使って練習しておくと、万全の対策ができた状態で試験に臨めるであろう。

■　一般入試（2 月 8 日）

出題傾向

解答時間は 60 分。全て五者択一式のマークシート形式である。本日程は大問が 3 つあるが、全て現代文の読解問題である。基本的には大問一、二が評論から、大問三が随筆・エッセイ・小説から出題されることが多いが、解き方は変わらないので、どのような文章から出題されても落ち着いて解きたい。そして、設問は年度によって多少変動するが、漢字問題、意味問題、指示語に関する問題、傍線部や本文の内容・理由説明などの読解問題、内容合致問題、空欄補充問題、文挿入問題、文整序問題、抜き出し問題、記述問題など、多彩な設問が並んでいることが多い。なお、空欄補充問題の内容も多彩で、語句や表現を入れる問題、接続語や副詞などを入れる問題など、こちらも幅広い問題が出題される傾向にある。なお、空欄補充問題で得点するには語彙力が必要だが、その語彙力は漢字を覚えることでも強化される。漢字問題が大問一で 3 問、大問二で 2 問、大問三で 2 問の合計 7 問出題されているので、漢字を覚えながら語彙力も強化しておきたい。

大問一は、安井眞奈美「狙われた背中―妖怪・怪異譚からみた日本人の身体観」からの出題で、約 2300 字であった。上記のような設問が並んでいたが、慣用表現に関連する問題や文学史に関連する問題も出題されていた。必ず出題されるという問題ではないので上記の出題傾向には載せていないが、やはり多彩な問題が並ぶので、幅広い学習が必要である。

大問二は、今野真二『うつりゆく日本語を読む』からの出題で、約 2500 字であった。例年通り、多彩な問題が並んでいた。

大問三は、田沼武能編『土門拳　写真論集』からの出題で、約 1800 字であった。上述したような問題が並んでいるため、例年通りの傾向である。

学習アドバイス

まずは、漢字対策を万全に行いたい。1 日 10 分でも毎日続けて、知らない漢字を覚えるようにしたい。また、文章に読みづらさを感じる受験生がいるかもしれないが、それは言葉を受け取るための語彙力が不足している可能性がある。知らない漢字を覚えたり意味を調べたりすることで、文章を頭に入れやすくするための基礎力を身につけておきたい。なお、上記の「出題傾向」で述べたように、漢字問題以外に空欄補充問題もよく出題されている。文章の流れの中で適切な語句や表現、四字熟語などを選ぶためにも、語彙力は欠かせない。よって漢字問題だけでなく、読解問題や空欄補充問題に対応するためにも、語彙力を鍛えておこう。

次に、読解問題の対策について述べる。評論や随筆・エッセイ・小説に関係なく、設問や傍線部を理解するという意識を持つようにしたい。例えば、受験生は「対照」という表現を「対比」という意味で理解する場合が多いが、「対照」には「照らし合わせる」という意味もあるため、「対比」という意味しかないと思い込んでいると解けない可能性がある。設問や傍線部で用いられている表現を筆者がどのような意味で使っているのか、自分が知っている意味だけで理解しようとせず、文章から正確に読み取ることが必要である。自分の主観や思い込みで誤解することがないよう、文章を正確に読み取る練習を積んでおきたい。

そして、時間配分も忘れないようにしたい。最初は時間配分に戸惑った受験生であっても、練

習すると慣れてくるものなので、何度も解いて反復練習をしておきたい。解けるはずの問題を試験本番で取りこぼすことがないよう、時間配分も含めた対策をしておきたい。